

IoT技術高度化委員会 エモーションWG

エモーションWGの目的

ITシステムは、現在までにデマンド（要求）ドリブンからイベント（行動）ドリブンへとシフトしてきた。IoT時代のドリブンモデルとして、エモーション（感情）をトリガとしたエモーションドリブンの可能性が議論されている。エモーションWGでは、「感情とIoTの融合」という切り口で、エモーションドリブンモデルのサービスユースケースの研究、エモーションキャッチセンサとデータの組み合わせの研究を実施する。

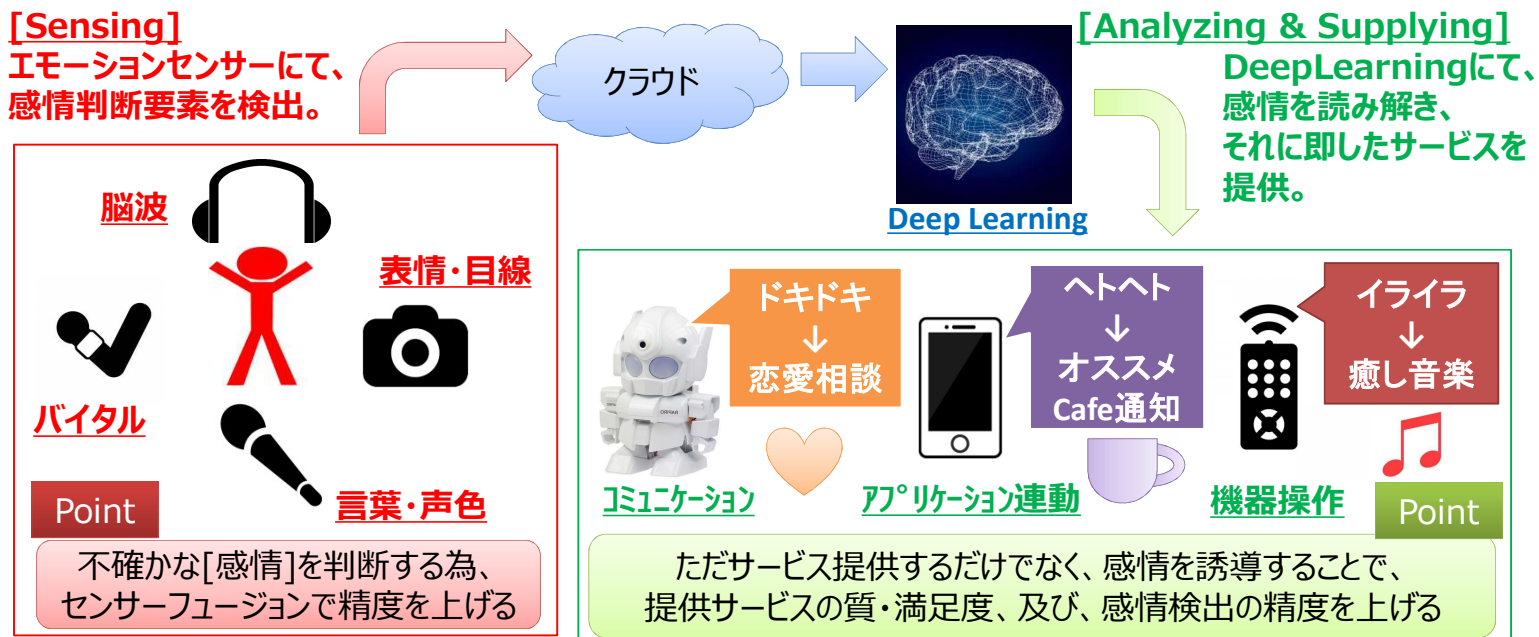
活動概要

[活動スタイル] 共創にて、皆で検討・創造していく。

- エモーションキャッチセンサを使用したエモーションドリブンモデルのサービスユースケースの検討
- Built To Think（プロトタイプ思考）の考え方にに基づき、検討したエモーションドリブンサービスモデルをオープンソースや既存のサービスと連携し、動作させることでサービスの有用性を検証
- 複数のエモーションキャッチセンサを組み合わせたエモーションセンサフュージョンシステムの検証
- エモーションキャッチセンサの継続的調査

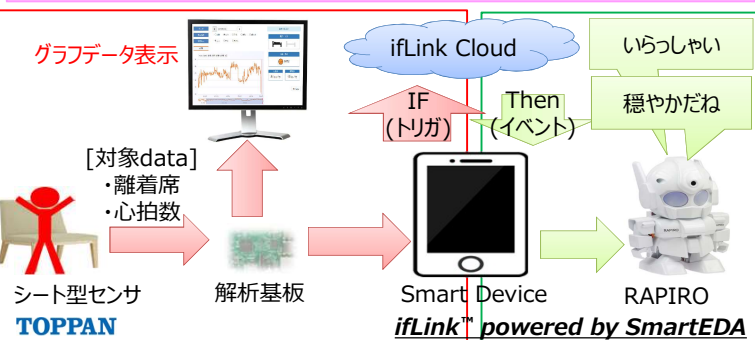
エモーションドリブンの世界

■ 本WGで想定するエモーションドリブンの世界では、以下のように感情をトリガにサービスを提供する



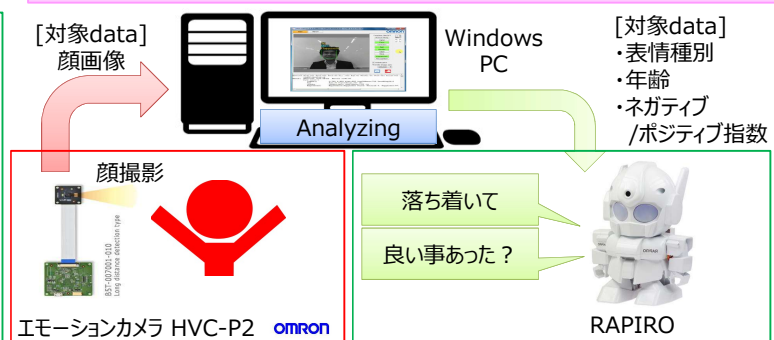
ET2017では、この世界のコンセプトを、以下2つのデモで表現します。

展示デモ1 / シートセンサ(バイタル)



- ・離着席&心拍データを監視し、グラフデータをモニタ表示
- ・大きな変化をトリガとし、ifLink経由でRAPIROがSpeak&Action

展示デモ2 / エモーションカメラ(表情)



- ・エモーションカメラHVC-P2にて、表情データを収集し、モニタ表示
- ・表情データの分析結果を元に、RAPIROがSpeak&Action